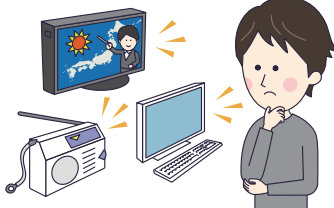


避難時の心得

避難時にとるべき行動

① 正確な情報収集と自主的な避難を



ラジオ・テレビ・インターネットで最新の気象情報、災害情報、避難情報を確認しましょう。雨の降り方や浸水の状況などに注意し、危険を感じたら自主的に避難しましょう。

③ 自動車での避難は控えて



自動車での避難は緊急車両の通行の妨げになりますので、特別な場合を除きやめましょう。また、水防活動の妨げになりますので、堤防や道路に自動車を放置しないようにしましょう。

② 安全な避難路の確認を

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。気象予報や河川洪水予報などの情報をもとにして、自主的に早めの避難を開始しましょう。

やむを得ず浸水の中を歩く際は、裸足・長靴は厳禁です。水中で脱げづらい紐靴などが適しています。

また、氾濫水は濁っているため、水面下は確認できません。長い棒などを杖替わりとし、側溝やマンホール、障害物などに注意しましょう。



④ 2人以上で避難

単独での避難行動は危険なので2人以上での行動を心がけ、近所のお年寄りや子ども、病気の人の避難に協力しましょう。



避難行動要支援者への支援

避難行動要支援者とは…

高齢者

- ・ひとり暮らし
- ・高齢者のみの世帯
- ・寝たきりの方
- ・認知症の方など

障がいのある方

- ・視覚、聴覚、言語が不自由な方
- ・肢体が不自由な方
- ・精神障がいのある方
- ・知的障がいのある方

状況によって支援が必要な方

- ・妊産婦
- ・乳幼児、児童
- ・外国人など

- 有事の際、地域で安否確認や避難支援ができるよう、日ごろから「見守り」「声かけ」「防災訓練」に参加し、地域の人たちでお互いに顔の見える関係を築きましょう。

